

平成 25 年 4 月 16 日

内閣総理大臣 安倍晋三 殿

消費者庁長官 阿南 久 殿

栄養成分表示に関する見解ならびに要望

一般社団法人 日本動脈硬化学会

理事長 寺本 民生

生活習慣部会長 佐々木 淳

我々日本動脈硬化学会は、これまで我が国民が健やかな日常生活を享受していけることを目的に、医療の立場から悪性新生物と同様に日本人にとって「死に至る病」としての動脈硬化性疾患の撲滅を目標に科学的かつ人道的立場から学会活動ならびに社会的活動を行ってきました。

この度、発表しました「動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2012年版」<sup>1)</sup>においても述べましたように国民の生活習慣を変革することにて動脈硬化性疾患発症、進展の危険因子である脂質異常症、高血圧症、糖尿病、喫煙を是正し、さらにメタボリックシンドローム、肥満症、慢性腎臓病、高尿酸血症など、様々な危険因子も併せて包括的な立場で管理することの重要性を認識しています。そして、動脈硬化性疾患予防の立場から我が国で次第に形作られた「日本食」<sup>2)</sup>の有用性を探る活動をしてきました。こうした「日本食」は医食同源や薬食一如といった毎日の食事の中で、病気を予防し、治療し、健康を保持増進し、不老長寿を得る健康法・医療としての食文化や粗食思想に基づく食事などの精神的食文化、さらに法食一如、精進料理、赴粥飯法などの宗教的背景に根差した食文化などが複雑に重なり合い形作られたものと考えられます。一方、戦後長らく1位を保持していた沖縄県男性の平均余命が平成12年には26位となった「26ショック」は我が国に押し寄せる食の欧米化からいかに日本人を守るか、危機感をもって知らしめられた出来事であります。

グローバル化した社会生活の中で、我々がいかなる成分の食物を食し、その内容と身体

に及ぼす作用、ならびに影響を知ることは当然の権利であり、まさに生活習慣病罹病から自己を守るための義務でもあります。貴消費者庁が平成22年12月から平成23年7月まで「栄養成分表示検討会」を開催され、食品表示に関する課題を整理され、その義務化に向けた検討をされたことは時を得た事柄として評価に値すると考えます。

平成23年8月23日にNews Releaseとして公表された「栄養成分表示検討会報告書」に描かれた国民健康を守るための栄養表示の考え方、すなわち「栄養の可視化」を図り、国際的歩調を同じくし、栄養表示の義務化を課してゆく方向性はまさしく、日本動脈硬化学会が望むものであります。

「生活習慣病を予防し、またはその発症時期を遅らせることができるよう、子どものころから健康な生活習慣づくりに取り組む。」「個人の健康を支え、守る環境づくりに努めていくことが重要であり、行政機関のみならず、広く国民の健康づくりを支援する企業、民間団体等の積極的な参加協力を得るなど、国民が主体的に行う健康づくりの取り組みを総合的に支援する環境を整備する。」などが平成24年7月10日告示の健康日本21（第2次）にも織りこまれております。

循環器疾患、動脈硬化性疾患の撲滅において、生活習慣の改善が重要であることは先に述べた通りであり、なかでも食事栄養に関する事項が重要となることは貴庁からもご指摘のある所であります。栄養表示においてはエネルギー、ナトリウムとともに「コレステロール」、「飽和脂肪酸」、「トランス型不飽和脂肪酸（トランス脂肪酸）」が俎上に上がってきます。平成23年8月23日公表の件の報告書では見直し案として、「脂質総量」のみが表示すべき栄養成分として提示されておりますが、これには問題があります。摂取脂質総量が動脈硬化性等心疾患のリスクを促進するのではないからであります。実際、摂取脂質総量を低下させたランダム化対照比較試験（RCT）のメタアナリシスでは冠動脈疾患の減少は得られておりません<sup>3)</sup>。一方、飽和脂肪酸を減らせて多価不飽和脂肪酸を増加したRCTのメタアナリシスでは血清コレステロール値の低下とともに冠動脈疾患リスクの低下をみております<sup>3)</sup>。また、飽和脂肪酸摂取を減らし、多価不飽和脂肪酸に置換した多くの試験で冠動脈疾患リスクの低下が得られています<sup>4)</sup>。一方、脂肪酸のなかでも魚油に多いn-3多価不飽和脂肪酸摂取は冠動脈疾患のリスクを低下することが多くの臨床試験で証明されています<sup>5)・6)</sup>。このように全ての脂肪が健康障害に繋がるわけでないことを示しております<sup>7)</sup>。まさに、獣脂の摂取が少なく、近海の魚や植物由来の多価不飽和脂肪酸摂取によって特徴付けられた「日本食」が我が国民の健康と寿命を支えてきたわけであります。

脂肪には多くの種類があり、それらをひとまとめにして総体としての「脂肪」摂取を低減することを目的として表示することでは十分でないと思います。こうしたことから、「脂質」の表示に加え、動脈硬化性疾患発症のリスクとなる「コレステロール」、「飽和脂肪酸」、「トランス脂肪酸」の栄養表示をただちに行うことを要望することを表明します。

我が国は貿易立国であり、米国、カナダ、韓国、ウルグアイ、アルゼンチン、パラグアイ、ブラジル、香港、台湾などに食品を輸出している食品企業は会社規模のいかんを問わず、すでに「脂質」の表示に加え、少なくとも「飽和脂肪酸」、「トランス脂肪酸」の表示を実行しているわけであり、我が国においても国民の健康を守る目的で早急な措置の実施を希望する次第です。

加えるに、同じ「栄養表示」においても、「コレステロール」、「飽和脂肪酸」は低減が目的であるのに対し、「工業製品としてのトランス脂肪酸」は「タバコ」と同様に、「0」にすることが目的です。「工業製品としてのトランス脂肪酸」含有食品に対しては表示のみでなく、厚生労働省との連携を模索され、様々な販売規制を設けることを併せて要望します。

本要望書に同意した学会（五十音順）

特定非営利活動法人	日本高血圧学会	理事長	堀内 正嗣
一般社団法人	日本循環器学会	代表理事	永井 良三
公益社団法人	日本小児科学会	会長	五十嵐 隆
一般社団法人	日本腎臓学会	理事長	松尾 清一
一般社団法人	日本糖尿病学会	理事長	門脇 孝
一般社団法人	日本肥満学会	理事長	中尾 一和

引用文献

- 1) 日本動脈硬化学会編:動脈硬化性疾患予防ガイドライ 2012 年版. 日本動脈硬化学会 東京 2012 6 20 発行.

- 2) Tada N, Maruyama C, Koba S, et al: Japanese Dietary Lifestyle and Cardiovascular Disease. *J Atheroscler Thromb* 18(9):723-734, 2011
- 3) Hu FB, Willet W: Optimal diets for prevention of coronary heart disease. *JAMA* 288: 2569-2578, 2002.
- 4) Baum SJ, Kris-Etherton PM, Willett WC, et al: Fatty acids in cardiovascular health and disease: A comprehensive update. *J Clin Lipidol* 6(3):216-234, 2012.
- 5) GISSI-Prevenzione Investigators: Dietary supplementation with n-3 polyunsaturated fatty acids and vitamin E after myocardial infarction: results of the GISSI-Prevenzione trial. Gruppo Italiano per lo Studio. della Sopravvivenza nell'Infarto miocardico. *Lancet* 354: 447-455, 1999.
- 6) Yokoyama M, Origasa H, Matsuzaki M, et al: Effects of eicosapentaenoic acid on major coronary events in hypercholesterolaemic patients (JELIS): a randomised open-label, blinded endpoint analysis. *Lancet* 369(9567):1090-1098, 2007.
- 7) 多田紀夫 : 虚血性心疾患の一次・二次予防のための非薬物療法. *Med Practice* 28(9): 1641-1648, 2011.